

季節はいよいよ秋本番…

二十四節気では既に「秋分」を過ぎ、先日(10/8)からは「寒露」に入りました。

さて、「寒露」(かんろ)とは…

草花に冷たい露がつく頃、という意味で、秋の深まりとともに朝夕には肌寒さを感じる日も増えてきたように思います。

空気が澄んで、夜空に月がさえざえと明るむ、そんな季節ですね。

でも…

人工の明かりで夜空が明るく、建ち並ぶビル群にあふれた都会では、月をゆっくりと眺める場所も、そして機会も少ないようですが、このところ、“日が短くなったなあ”ということだけは実感できます。

夕方、日が傾いてきたと思ったら、間もなく西の空が茜色に染まり、日が沈んでしまうのです。

「つるべ落とし」というのは、まさにこのような秋の夕暮れをいう言葉なのですね…

今回紹介するのは、「トリノフンダマシ」…という生きものです。

一体何者なのでしょう。

◆写真①～③： トリノフンダマシ

◇ダイヤモンドトレール沿いの広葉樹の葉裏で、じっとしていました。

◇体長は 10mm 程度ですので、この個体は雌です。

ちなみに雄の体長は 3mm にも満たないです。

◇写真①～③を見ても、一体何の生きものなのかわかりにくいです。

◇カエルかカッパか、或いはカマキリの顔のように見えませんか？

◆写真④： トリノフンダマシ

◇捕まえてササの葉の上に移すと…

何と、のそのそと歩き始めたのです！

◇歩くのはのろいし、網も張っていないのに、これは「クモ」なのです。

◇「トリノフンダマシ」という奇妙な名前は、見てのとおり“鳥の糞に似ている”からなのでしょうね。

◇でも疑問が残ります。

体を鳥の糞に似せて擬態しているということなのですが、この種、昼間は葉の裏で寝ているのですから、何もこんな凝った体にする必要があったのでしょうか？

もしかしたら、彼らは擬態の意味を勘違いしているのかも知れませんね…

◇そして夜になると…

体長わずか 10mm なのに、何と 1,000mm (1m) を超す巨大な網を張るのです。

◇でも、その網、スカスカなのです…

縦糸や横糸の間隔が 100mm ほどもありますので、獲物が飛来しても糸の間を素通りしてしまうのです…

どうやら小物は相手にしない“大物狙い”なのでしょうね…

◇いずれにせよ、謎の多い生きものみたいですね。

◆写真⑤：ワキグロサツマノミダマシ

- ◇またまた「ダマシ」の登場です。
- ◇こちらは明らかに「クモ」だとわかります。美しい緑色の丸い腹部を持っており、体長は 10mm ほどです。
- ◇彼らも先の「トリノフンダマシ」と同様、日中は葉の裏に潜んでいて、夕方になると円形の網を張るようです。
- ◇果たして、彼らは何を「だまし」ているのでしょうか？
- ◇「サツマノミ」とは、ハゼの実のことで、そのハゼの実によく似ていることから“サツマノミダマシ”となったようです。
(「ワキグロ」とは、腹部下面が褐色をしているからです)

◆写真⑥：ハエトリグモの仲間

- ◇体長は 8mm 程度の小さなクモです。
- ◇この仲間は、非常に多くの種類があります。
いずれも比較的小型で、よく走り回り、ジャンプも得意です。
そして、歩きながら餌を探す徘徊性のクモなのです。
- ◇目が大きく発達しているのが特徴で、前列に 4 つの目が、正面を向いて配置しているのがわかりますね。

◆写真⑦：カバキコマチグモの巣？

- ◇「カバキコマチグモ」とは、網を張らない体長 10~15mm のクモで、ススキの葉で巣を作ります。
- ◇在来種では最も強い毒を持ち、咬傷事故が問題になる数少ないクモです。
- ◇巣を開いたりしなければ噛まれることはありませんが、卵を守っている時期のメスは指先に噛みつくことがあり、そうなれば数日間は腫れるようですから、うかつに巣に手を出さないように注意しましょう。
- ◇巣の中に卵のうと母蜘蛛がおり、子どもたちが孵化するまで母蜘蛛は絶食して卵を守り抜くのです！
- ◇そしていよいよ孵化して子どもたちが出てくると…
母蜘蛛は自らの体を子どもたちの餌として捧げるのです…













